

鶺三小だより 11月号

令和5年 神無月31日
各務原市立鶺沼第三小学校

【11月の予定】

日	曜	行事等
1	水	1, 2年合同遠足
2	木	午前日課・学年下校
3	金	文化の日
4	土	
5	日	
6	月	6年修学旅行
7	火	6年修学旅行
8	水	
9	木	5年宿泊研修
10	金	5年宿泊研修
11	土	
12	日	
13	月	
14	火	
15	水	
16	木	委員会 ららら教室
17	金	命を守る訓練
18	土	
19	日	
20	月	4年進路講話
21	火	
22	水	3年交通安全教室
23	木	勤労感謝の日
24	金	1, 2, 3年給食カット
25	土	
26	日	
27	月	
28	火	音楽鑑賞会
29	水	
30	木	クラブ ららら教室

「美しい心」は「美しい言葉」を使うことから

鶺沼第三小学校は「美しい心」を大切にしてきた学校です。後期のスタートにあたって、この「美しい心」について、全校の皆さんがどれだけ考えてくれているかを、私は一人一人見ていきたいと思っていることを伝えました。とはいえ、私は普通の人間なので、皆さんの心が見えるわけでありませし、皆さんが何を考えているのか、皆さんの頭の中が見えるわけでもありません。ですから、皆さんが使う言葉から、皆さんの心がどれだけ美しいか見ていきたいと思っています。

汚い言葉、下品な言葉は、間違いなく心を汚していきます。逆に心が美しい人は、そんな言葉は使いません。例えば、「うるせー」「ばか」「関係ねえ」このような言葉は、全く美しくありません。「あおられた」とか、「だまれ」などという言葉も、特に学校の中では100%使う必要の無い言葉です。

鶺沼第三小の皆さんは絶対に使わないでほしいのです。一度口から出た言葉は、取り消すことができません。例え本当はそう思っていなかったにしても、自分が使った言葉で、人の心を傷付けてしまっは責任の取りようがないのです。自分が使った言葉で、人の心を傷付けて平気な人は、この学校には一人もいないと信じています。使う言葉をよく考えてほしくて、今回の学校だよりを書きました。最後に、もう一度だけ言います。私たちが使う言葉は、私たちの心のあらわれです。汚い言葉、下品な言葉、何より人を傷付ける言葉は、絶対に使ってはいけません。皆さんが使う言葉は、人を励ましたり、ありがとうと感謝を伝えたりする美しい言葉であってほしい、私は強くそう願っています。

「美しい心」は人のために働く「ボランティアの心」

「美しい心」は、使う言葉から分かるだけではありません。その人の行動からも良く分かります。特に、人のために働くボランティア活動をしている人は、その行動こそが「美しい心」のあらわれだと思います。夏休み、私は出張からの帰り道で、車のタイヤが一つ吹っ飛んでしまった事がありました。しかも山道のトンネルの中の事です。「ガタガタ」と音がして、あれっと思った瞬間右前のタイヤがバフッという爆発音と共に飛んでいきました。何が起こったのか理解できないまま、急ブレーキを踏み、車は止まりました。困りました。そのトンネルは街中からずいぶん離れた山の中でした。途方に暮れていると、軽トラックがとまり、「どうしました？」と50代くらいの男性が、声をかけてくれました。事情を話すと、もう一人の20代らしい男性と二人で、「このままここには危ないから、とりあえず、スペアタイヤに交換しましょう。」と言うと、すぐに作業を始められました。見事な手さばきで、あっという間に、タイヤの交換をしてくださいました。びっくりしている私をよそに、「スペアタイヤだから、街まで行ったらすぐにタイヤを交換してくださいね。」と50代の男性がそう声をかけてくれ、そのまま運転席に乗られたので、私は、「あの、お名前を？」と聞きました。すると、「名乗るほどの者じゃありません。困ったときはおたがいさます。」とお二人はそのまま行ってしまわれました。

きっと、この道の奥の山で仕事をされた帰りに、たまたま私の車を見つけ、私を助けてくださったのでしょう。「困った人がいたら、助ける」そんな当たり前のことを、ごく自然になされたお二人の姿。

私も、「困っている人がいたら、絶対助ける」と心から思いました。もちろん、ボランティア活動は困った人を助ける以外にも、身近なことから始められるものです。

皆さん、この鶺三小を、ボランティアが盛んな学校にしませんか？